

坂井市保育研究会 保育園への出前授業

幼児教育学科 教授 重村 幹夫

平成28年度より、坂井市保育研究会からの依頼で出前講座を行ってきました。この4年で訪れた保育園関係施設は30園以上になりました。保育者を対象とした講義演習を行うこともありましたが、大半は幼児を対象とした造形活動です。その活動については、「造形遊び」の概念を用いています。これは、本来小学校の図画工作において提唱されたものですが、現在では中学、高校の美術にまでその影響を与えているものです。その本質は、材料や技法の環境構成を行い、後は必要に応じて援助をしながらも、基本的には子どもが本来持っている創造性に委ねるという考え方に基づいています。実は、このような考え方とその結果生まれた作品は、20世紀特に戦後以降の美術制度と奇しくも対応していると指摘されることが多いのです。また、保育の現

場には「造形遊び」という言葉はありませんでしたが、現場が長年実践してきた内容と共通するところもあり、近年は小学校の「造形遊び」と区別して「造形あそび」と呼ばれ、実践、研究が見られるようになってきました。

これまでに関わった幼児は600人を超えるまでになりましたが、この講座を通じて私が子どもから学んだ最も大きなことは、子どもの力といひましようか、その圧倒的な生命力の再認識です。「造形遊び」の提唱者は、「子どもと切実に生き合う」と述べています。この「切実に」という言葉はいかにも大げさなようですが、子どもとの関わりを通じ納得がいくものとなりました。それは、主体的に集中して活動に取り組む子どもたちの真剣な表情に端的に表れています。



多様な材料をいつでも取りに行けるよう環境構成を行う 年長児



ビー玉転がしの装置を多様な材料で試みる 年中児



多様な作品の完成 年長児



ホール全体を使う 中央に置いた材料がほとんどなくなっている 年中児